

NPOワンポイントアドバイス!

～時間のムダをおさえる工夫～

誰にとっても、どんな組織にとっても、時間は大切です。

そこで今回は、大切な時間をムダなく最大限に活用できる組織風土のつくりかたについてお伝えします。

1. 判断をさらに踏み込む&早く

- ◆判断を先送りせず、「じっくり」ではなく「しっかり」検討しましょう。
- ◆「質問する・される」ことを歓迎しあうと活動や業務の精度が高まり、結果、時間のムダをなくすることができるようになります。

2. 指示・説明をさらにわかりやすく

- ◆指示や説明は、口頭だけでなく文字でも伝えるようにしましょう。忘れたり、思い違いをしていたりを防ぐとともに、確認も素早くできるようになります。
- ◆指示・説明は大きな字で書いて表示すると効果的です。ポイントは、「覚えやすいように」「具体的に」「初心者でも分かるように」です。
- ◆「何がゴールか」と同時に「ゴール一歩手前」の状態についても説明しておく、作業等がしやすくなります。

3. 確認をより詳細に

- ◆講座やイベントなどを行う場合は、下見やリハーサルを必ず行いましょう。
- ◆日頃から、集める情報の精度を高めておきましょう。
- ◆気付いたことは、必ず記録する習慣を根付かせましょう
- ◆振り返りと申し送りを徹底しましょう。

4. 片付けをより丁寧に

- ◆日常的に整理整頓ができていると、次の業務が素早くできるようになります。片付け後、全員で確認しておくことをお勧めします。
- ◆日常的に整備・メンテナンスを行うようにしましょう。不備や不具合は、気付いた時にすぐに直すようにしましょう。

参考:『NPOマネジメント 47号』IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行



センター長のつぶやき

まちづくりセンターセンター長 丸藤 競

実はスタッフから「お土産マイスター」と言われています。昨年だけで数十回出張があったのですが、その度にお土産を買ってくるので、スタッフに(たぶん)喜ばれています。お土産と言えば、もちろん食べ物。全国各地の美味しいお菓子を求め、旅先で走り回ることも。同じ物は買ってこないようにしているので、札幌のように月に何度も行くことがある所は、これまでのお土産とダブらないようにするだけで大変です。

最近では“お土産品”として売っているものより、その土地の老舗の味の方が好評です。ここだけの話し、本来の用事よ

りも熱心の下調べをし、時間のやり繰りをして手に入れることもあります。老舗の名品には、その地域の味を活かし、とても実直につくられているものが多くあります。歴史や文化、人々の想いなどが伝わってくることもあり、とても贅沢で記憶に残る美味しさを楽しめます。

では、函館ではどんなお土産があるのでしょうか。駅や空港の売店に置いてあるのは北海道を代表するお菓子が多く、“函館といえば”という物はあまり見当たりません。

函館は、道内でも歴史のあるお店や老舗が多い街です。従って、“函館と言えば”の答えは、その老舗の味にあるのかもしれない。しかし、その魅力を肝心の市民が知らないままとすることも多いような気がします。地域の人々が愛し、誇りに思っていてこそその老舗。観光に頼ることが多い街の生きる道として、私達こそがもっと地元老舗の魅力を知る必要があるのではないのでしょうか。